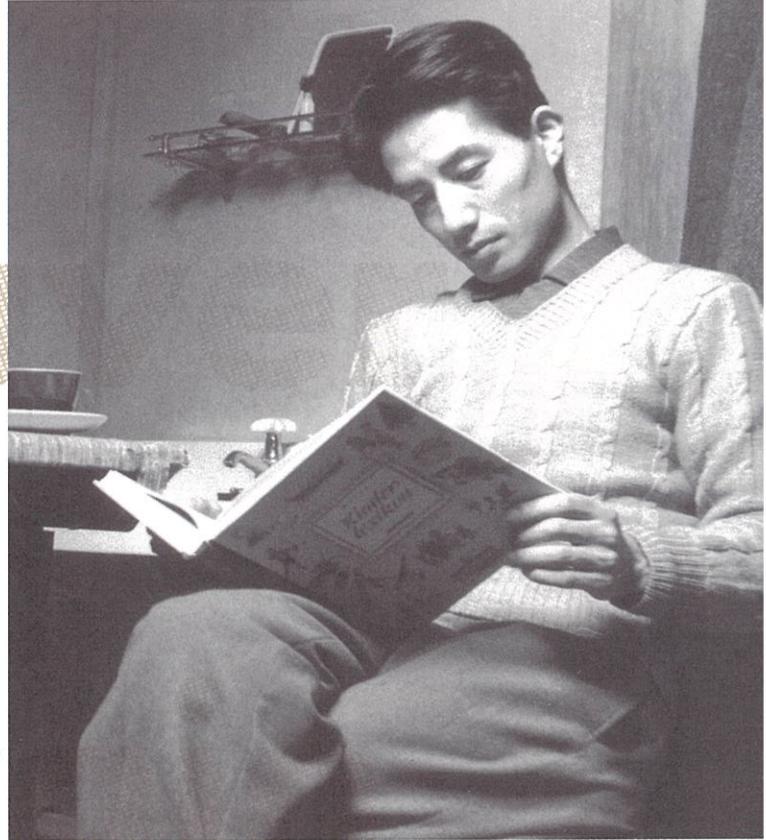


Tsuji Kunio :



フライブルクのゲストハウスで本を読む辻邦生
1960年

辻と妻・佐保子と交わしたイラスト



生誕100年展

Re: 辻 邦生 [Part 1]

— いま、ふたたび作家に出会う



Tsuji Kunio : retrouver l'écrivain aujourd'hui

2026年 3月14日[土] - 5月16日[土]

開館時間 | 10時~17時 (入館は16時30分まで) 観覧料 | 入館無料

休館日 | 日曜日・祝日・5月3日(日)~6日(水) (ただし4月12日(日)は開館)

主催 | 学習院大学史料館 / 協力 | 辻邦生生誕100年記念事業組織委員会 展示協力: 株式会社 curioswitch、くんカンパニー、河原美紀

KASUMI KAIKAN MEMORIAL GAKUSHUIN MUSEUM

霞会館記念 学習院ミュージアム 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 TEL.03-5992-1173 (直)

Re: 辻邦生 [Part 1]

— いま、ふたたび作家に出会う

Tsuji Kunio : retrouver l'écrivain aujourd'hui

1960年代～90年代にかけて文学界に確かな足跡を残した作家・辻邦生 (1925～1999)。

「文学は、いま・ここに存ること、生きていることの〈喜び〉をもたらす」というゆるぎない信念のもと、緻密な構成と壮大なスケール、端正な文体で数多の作品を紡いだ作家です。

旧制松本高等学校生だった辻が19歳で初めての小説『遠い園生』を書き小説家を志した時、日本は第二次世界大戦末期の厳しい時代のただ中にありました。敗戦後、焦土と化した祖国を見て文学にいったい何ができるのかという無力感に、辻の創作への思いは激しく揺れ動きます。

それでも〈書く〉ことを手放さず、東京大学でフランス文学を学び、1957年には最愛の妻・佐保子と共に念願のパリ留学を果たします。

三年半の間、国立図書館と下宿で読書に明け暮れ、西欧各地を旅し、ひたすら文学の可能性を模索する日々の中、34歳の時に訪れたギリシアで「啓示」を受けます。この体験が文学への無力感から再び立ち上がり、生きることを肯定する小説を書きつづける力を辻に与えたことは、19歳から終生書き続けた日記『Journal』の中に詳しく書かれています。

帰国後、最初の長篇『廻廊にて』(近代文学賞)を37歳で発表。その後1966年からの11年の間に、抑えていた思いを一気に解き放つかのように『夏の砦』、『安土還選記』(芸術選奨新人賞)、『天草の雅歌』、『嵯峨野明月記』、『背教者ユリアヌス』(毎日芸術賞)、『春の戴冠』

などを次々に発表し、40、50代と旺盛な創作活動を続けます。1995年には、集大成ともいえる小説『西行花伝』で谷崎潤一郎賞を受賞します。その一方、戦前の教養主義による東西文化への深い理解に基づいた評論やパリ滞在記、旅行記のほか、美術、音楽、映画、演劇についての多くの辻の文章は、当時の若い読者を知的に目覚めさせるものでした。また、学習院大学で約35年間フランス文学を教えました。

本展では、辻家より受贈した原稿や創作メモ、書斎、遺愛品に加え、辻と親交のあった方々から寄せられた品々を通じて、暗い時代に青春を送りながら小説を通して生きる喜びを世に伝えた辻邦生の文学と生涯をたどります。戦争の止まない現代を生きる私たちが今再び辻邦生と出会う・再会する意味を見出していただければ幸いです。



(左) 高輪書齋にて/1990年頃 1971年から晩年まで住んだ港区高輪マンションの書齋スペース (中) 日記 Journal/1945年から99年まで生涯「たえず書き続けた」日記は100冊に及ぶ (右上) 航海中のスケッチブック「4等船室の丸窓から見た地中海」/1957年9月4日、フランス郵船カンボージュ号4等客として乗船し渡仏した約ひと月の船旅の間に描いた (右下) パリ俯瞰地図/1957年頃 特定の地区や街筋を歩いたり訪れたりする度に黄色い色鉛筆で塗りつぶしていった

Gallery talk

ギャラリートーク

辻邦生生誕100年記念展「Re:辻邦生—いま、ふたたび作家に出会う」

の展示資料解説や、関連のエピソードをお話します

日時: 第1回3月28日(土)/第2回4月18日(土) 各回14時～(約30分)

会場: 学習院ミュージアム 特別展示室 お申込み不要

Lecture

ミュージアム講座 第102回ミュージアム講座「ことばと響きあう〈美〉と〈音〉」

第1部 講演「辻邦生と美術」 講師: 青柳正規氏 (東京大学名誉教授、元文化庁長官)

高橋裕子氏 (美術史家、学習院大学名誉教授)

第2部 演奏「辻邦生と音楽」 解説: 中条省平氏 (フランス文学者、学習院大学名誉教授)

演奏: 笹沼樹氏 (チェリスト、学習院大学文学部卒)

日時: 6月27日(土) 13時～16時30分 (開場12時30分) (予定)

会場: 学習院創立百周年記念会館 正堂 お申込不要 入場無料

Next

Re: 辻邦生 [Part 2]

— 作家をめぐる人と世界

Tsuji Kunio : autour de l'écrivain, les êtres et les choses

2026年 6月23日[火] - 8月1日[土]

開館時間 | 10時～17時 (入館は16時30分まで) 入館無料 休館日 | 日曜日・祝日・8月1日(土)は開館

Part2では、辻邦生に影響を与えた師、友、家族を紹介する他、作家が暮らした場所、愛したものなど辻邦生を取り巻く世界をたどり、物語を作り出した作家がどのように形成されていったかを見つめます

KASUMI KAIKAN MEMORIAL

GAKUSHUIN MUSEUM

霞会館記念 学習院ミュージアム

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 TEL.03-5992-1173 (直)

○JR山手線「目白」駅下車徒歩1分 + 学習院大学西門より徒歩4分 ○東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅下車徒歩6分 + 学習院大学正門より徒歩1分 ○都電荒川線「学習院下」、「鬼子母神前」駅も利用可

